

令和 5 年

4 月号

No.642

今月
の
ご法話

村上先生と「堪忍」の教え

法音

日蓮宗 法音寺



勇猛精進

かん にん
堪 忍

全てのことに「はい」と言おう

堪忍できる

全てのことに感謝しよう

堪忍できる

全てのことを喜ぼう

堪忍できる

続ければ仏になれる

月刊・法音 令和5年4月号 No.642 目次

【信仰の指針】忍果にんか 堪忍の功德の大きさは計り知れませんが 1

【朝のこない夜はない】

村上先生と「堪忍」の教え 山首 鈴木正修 2

◆講日のご案内

◆有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 15

◆五十萬巻 御報恩納経 妙法蓮華経 久遠偈 18

◆仏教漫画『日蓮さま』・⑫松葉ヶ谷の法難 19

◆松葉ヶ谷の法難

◆お寺の本棚 28

◆常寂光土への誘い(9) 30

◆やさしい仏教 34

◆のりのね体験 36

◆支院だより・計報 39

◆福祉のひろば 55

◆幸せのお手伝い 56

○昭徳会・福祉・介護の業界研究会を開催 58

○日本福祉大学29周年、日本福祉大学は学園創立70周年を迎えます 60

◆賛助員ご芳名 62

◆幸せの種まき／編集後記 64

◆連載まんが・ひまわり・123 秘密 65

◆法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字 山首上人さま書

掲載写真 表紙・信仰の指針

3頁・梅田雅臣氏撮影
2頁・加納将人氏撮影

表紙写真・サクラ

信仰の指針

に
ん
か

忍果

堪忍の功德の大きさは

計り知れません

日教五



レンギョウ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

村上先生と「堪忍」の教え

法音寺の二祖である村上齋先生は昭和22年2月3日、午後1時46分にご遷化されました。92歳の文字通り天寿を全うされました。村上家は長寿の家系で、娘さんも90歳近くまで、息子さんは90歳過ぎまで生きられました。ご遷化される少し前、1月29日の朝、村上先生は「もう無上道に帰るのだから、枕を北枕にしてほしい。多分、五日後の午後2時頃に帰ります」と言われました。それから、各方面に村上先生がご病気であるということとが通達されました。そして30日の正午頃、「私は無上道に帰るのであるが、私の徳はすべてここに置いていくから、皆さん堪忍強く、慈悲深く、真心広く修行してください。お互いの力次第で大きな徳の人となれます」と言われて、右手を握っては広げてを繰り返されました。



握りこぶしは堪忍を表しています。堪忍の大事さを最後まで伝えられたのです。

31日の夜、御開山上人を手招きして、「今眠っている間に私は極楽へ行ってきました。実にきれいなところで、たくさんの仏さまのおられるところでした。仏さま方は私を取りまいて、ご苦労さま、ご苦労さまと労わってくださって、本当にうれしかったです。」と語られました。

2月1日、ここでご遺訓を村上先生に代わって御開山上人がお見舞いの方々に伝えられました。

「妙法蓮華経は慈悲・至誠・堪忍、因と果の五つです。三徳を実行して善因善果、悪因悪果ということを知って功徳を重ねていけば、必ず仏に成れます。妙法蓮華経の妙は、よみがえる、ということ。災いを転じて福となす。貧者を富者とする。病者を健康者とするということです。また大きく言えば地獄の者でも仏にするということです。仏になるためには百千万億の仏をご供養しな



ければいけません。これは、これから仏になる世の中の人達のことです。自分の周りの夫、妻、父母兄弟、隣人などに対して仏を敬うが如くしなさい。また朝起きて掃除することも、みな仏のご供養です。炊事をすることも、又商売をすることも、みな仏が相手です。敬いの心を持って接してください。人々の心に安心を与え、便利を与え、喜ばすように心掛けてするのは、みな仏のご供養です。こう考える時、仏のご供養は随分多いのです。毎日の働きは本当に意義があり、毎日がうれしい日となるのです」

この後、村上先生は御開山上人の手を両手で握って「それではどうぞお願いします。私の体はなくとも、魂はここにいて、今までよりも働きます。何もかもお渡しするのでお願いします」と言われたのです。ご遷化された2月3日は大雪でした。予言された通り、午後2時頃に大往生を遂げられました。



村上先生は元々愛知医専（現名古屋大学医学部）に勤めるお医者さんでした。村上先生はかなりの資産家でしたが、人に騙されてすべて失ってしまわれました。その上、奥さんと二人の子どもさんにも出て行かれて、もう死にたいと思っておられました。そこに杉山辰子先生が尋ねて来られたのです。杉山先生は妙法と医薬によつて世の人々を救おうと思われ、その協力者を探しておられたのです。そこで出会われたのが村上先生でした。杉山先生は村上先生に「因果の理法」と「仏教の真理」を説かれた後、次のように言われました。

「世の中にはあなたのように精神的にも物質的にも悩んでいる人が随分多いのです。この苦しみを逃れる途は妙法の信仰より他にはありません。あなたが今の苦しみを逃れるには、仏の教えを信仰し、そして世の中の悩んでいる人々を救つてあげることです。百人位の人が救われる時、あなたの不幸の因果は消滅するでありましょう」



杉山先生すぎやませんせいの話はなしを聞きかれた村上先生むらかみせんせいは、迷まよいから覚さめたような心持こころもちになられ、後の半生はんせいを信仰しんこうに生きよう、そして悩める人ひとの心こころの病やまいを治なおす医者いしやになろうと決心けつしんされたのです。

村上先生むらかみせんせいは常々つねづね、次のように言いわれていたそうです。「私は罪障ざいしょうの多い者ものだ。しかし、今いまは何不自由なにふじゆうなく法ほうの道みちを説といて喜んで暮くらせるのである。元来がんらい私は胃腸いちょうの弱い者ものであったが、長生きながいきできたのは皆妙法みなみょうほうの賜たまものである。昔むかしから罪障ざいしょうの消滅しょうめつということも色々聞きかされたが、現在げんざいの私の境遇きようぐうを思おもう時ときに、人ひとの悩みなやみをお救すくいすることこそ自分の罪障ざいしょうを消滅しょうめつすることであり、妙法みょうほうこそ罪障ざいしょう消滅しょうめつの真実しんじつの方法ほうほうであると確信かくしんしている」

村上先生むらかみせんせいはご法話ほうわの中で、ご自分じぶんの欠点けってんを三つ挙あげておられます。

「一つは腹はらを立てること。後の二つは取り越こし苦労くろうと、堅苦しいこと。このため私の半生はんせいの幸福こうふくは蹂躪じゆうりんされたの



であります。この悪魔は私ばかりでなく、世の中の多くの人々をも苦しめているのであります。その中でも腹を立てることの損の大きいなるは、実に筆舌に尽し難いのであります。病の原因となり、災難のもとともなり、物質の損失を招き、ついには一命をも失う、恐るべき事態を招くことになるのであります」

村上先生は怒りの恐ろしさを悟り、腹を立てない堪忍の修養を生涯続けられたのです。

水風呂に入られた話は有名です。当番の人が風呂を沸かすのを忘れ、村上先生が水風呂に入るはめになった時、村上先生は何くわぬ顔で風呂から出て「今日は地獄に行く罪が一つとれたよ」と言われたそうです。

こんな話もあります。昔は自転車にリヤカーをつないで、そこにござを敷き、その上に座布団を敷いて乗り、村上先生は法座に赴かれたそうです。ある時、寺男の力ネさんが自転車をこいで村上先生を法座先にお連れしま



した。カネさんは後ろに村上先生が乗っておられるのを忘れて、急ハンドルを切ってしまいました。そのためリヤカーがひっくり返って、田んぼに村上先生が頭から落ちてしまわれたのです。その時、村上先生はカネさんに合掌して「カネさんありがとう、地獄に行く罪がこれで一つとれたよ」と言われたということです。

村上先生の時代は毎晩法座があり、村上先生がお一人でご法話をされていました。参加者はそれほど変わりません。日達上人に私がそのことを「すごいですね。毎晩ですか」と言うと、「確かにすごい。もっとすごいのが毎晩同じ話だったことだ」と言われていました。毎晩、堪忍の話をされていたのです。日達上人が続けて言われたのが「堪忍の話を毎晩聞いても、なかなか実行はできないものだ」ということです。私達は常々、「ならぬ堪忍、するが堪忍」と聞いていますが、本当にいくら聞い



てもなかなか実行はできないものです。

山本妙順法尼のお母さまである服部妙晃法尼は村上先生むらかみせんせいの時代じだいに入信にゅうしんされました。やはり村上先生むらかみせんせいにいつも「堪忍かんにんしてください」と言いわれていました。子どもさんのことを相談そうだんしても、ご主人しゅじんのことを相談そうだんしても、何を相談そうだんしても「堪忍かんにんしてください」だったそうです。

服部法尼は腎臓じんぞうが悪く、一日中横よこになっなっていることもよくあったそうです。ただそんな状態じょうたいでも、堪忍かんにんをしていいると、次に何か徳とくを積つまなければと思おもわれたそうです。堪忍かんにんをして徳とくを積つむうちに腎臓じんぞうが良よくなり、生涯病院しょうがいびやういんに行いくことがなかったと言いわれていました。病氣びやうきというののは自分じぶんが作るもののです。怒おこることによって作ることも多おほいと思おもいます。堪忍かんにんを守るまもることによって病氣びやうきのものが断たたれていくのだと思おもいます。



村上先生は、「杉山先生がご遷化された時に一番堪忍を試された」と言われています。

杉山先生がご遷化された直後、杉山家の代表という人がやってきて「現在の救済会の全資産を杉山家で相続するから、村上先生以下信者さんも全員出ていくように」と言いました。その時、村上先生は「これは諸天のお試しだ。諸天が私を試しておられるのだ。これ乗り越えて一つ上の悟りに行かなければ」と思われました。

その時、信者さんの中で法律に詳しい方が、「裁判をすればおそらく勝てますよ。土地、建物は杉山先生の個人名義ですが、実質的に救済会の資産であり、杉山先生個人の物ではありませんから」と言われたそうです。しかし村上先生は「裁判はケンカをするのと同じです。長年守ってきた堪忍を破ることになり、徳を失うことになります」と断られたのです。そして、一年くらいかけて交渉され、杉山家の代表の方に財団法人の理事となって



果があつたはずです。それがなかつたということは、わかりやすく言えば、あなたの実行が足りなかつたのです。ですから、信仰をしてきたけれども功德がなかつた、なんてことを絶対に人に言つてはいけません。言えば大謗法罪になりますよ」と釘をさされたそうです。

村上先生はご自身の体験から、慈悲・至誠・堪忍を実行してお題目を唱えていけば、必ず大きな功德があるのは間違いない。功德がないというのは真の信仰をしていなかったのだと確信されていたのです。

村上先生は六波羅蜜に照らし合わせて、ご自分の行動を毎日反省しておられました。「布施」に関しては、今日は貪る心がなかつたか、施しはできたか。「持戒」は至誠ですから、私利私欲に基づいて行動することがなかつたか。「忍辱」は堪忍ですから、怒ることはなかつたか、愚痴不足はなかつたか。「精進」、怠ける心はな



かったか。「ぜんじょう禅定」、心がしん穏やかであったか、ぜんどう善道をは
ずれて迷う心はなかったか。「ぶつち仏智」、ぼん仏さまのちえ智慧を
もって物事が判断できたか、偏った心なく人に平等に接
することができたか。このように村上先生は日々反省し
欠点を正しておられたのです。

わたくしたち私達も村上先生にならって、夜寝る前に今日一日どう
であったかを反省して、日記などをつけてみるとよいと
おもいます。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき

教えを心にしみ込ませましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

西春支院	4月2日(日)	田川支院	4月8日(土)
福岡支院	4月9日(日)	東京支院	4月15日(土)
京都支院	4月20日(木)	静岡支院	4月22日(土)
岐阜支院	4月23日(日)		

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	2日・15日・22日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市中心4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	9日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・22日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825 ご連絡は本山事務局へ
佐屋支院	4日・9日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	2日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	2日・14日・18日・23日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・9日・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	2日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	2日・15日・23日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・23日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎(0595)21-0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	2日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	9日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	2日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	8日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)421-0175
岡山支院	2日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	2日・16日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	8日・23日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)621-5087
安芸津支院	2日・16日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)451-4012
坂支院	9日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	2日・9日・15日・16日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)441-5445
筑後布教所	9日・23日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)531-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)581-0742
田川支院	8日・16日・23日	田川市春日町7-30	☎(0947)421-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)851-6860
亀岡布教所	10日・23日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)251-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

高祖 日蓮大聖人 第七百五十遠忌
始祖 廣宣院殿安立大法尼 第百遠忌
御開山 叡山院日進上人 第七十遠忌
御報恩

五十萬卷 御報恩納經
妙法蓮華經

久遠偈

大乘山 法音寺

書写經典 久遠偈（如来寿量品第十六）
納經期間 令和4年1月1日より10年間
納經供養金 1冊 2,000円

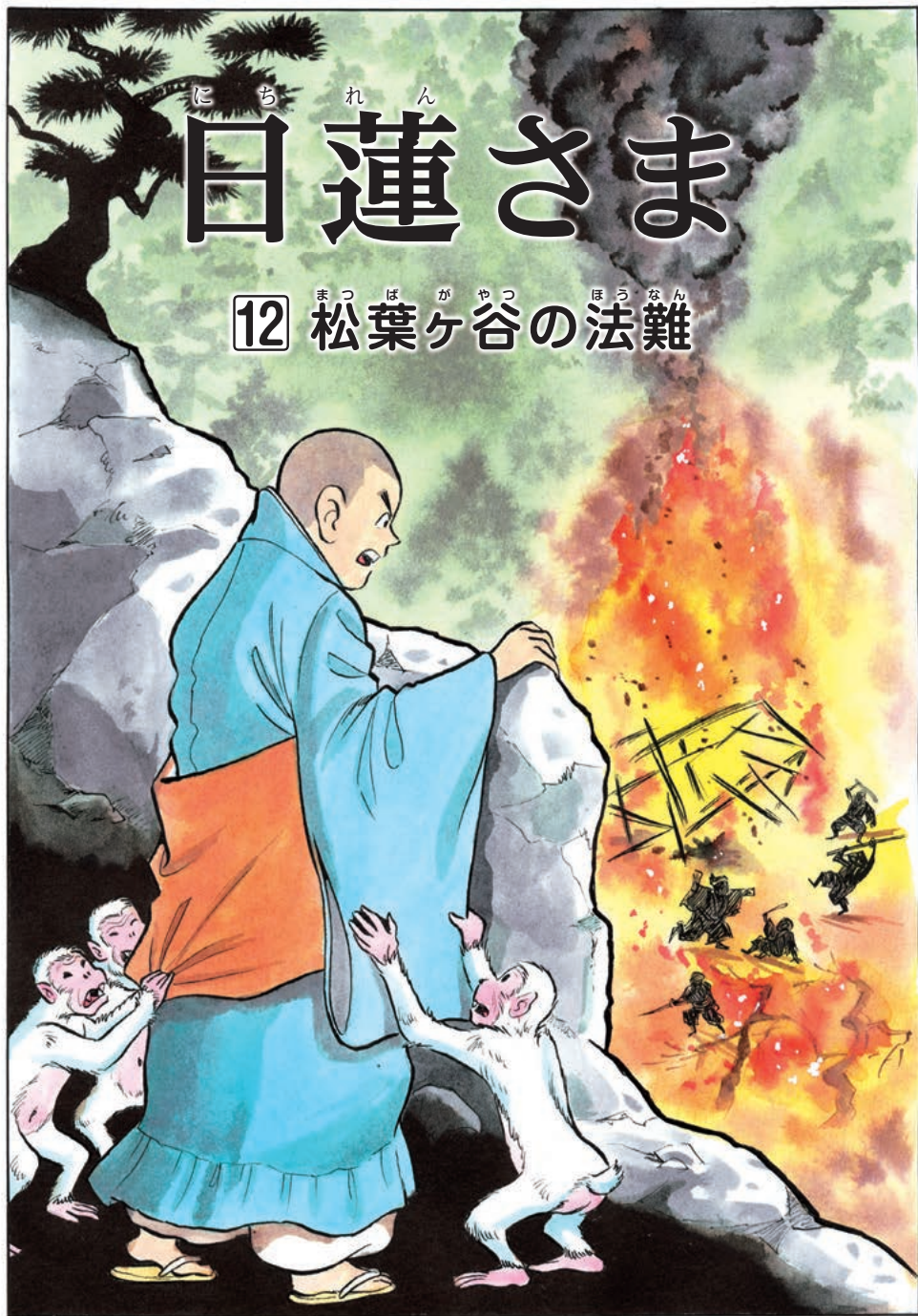
※納經帳のお求めは本山事務所受付または所属まで

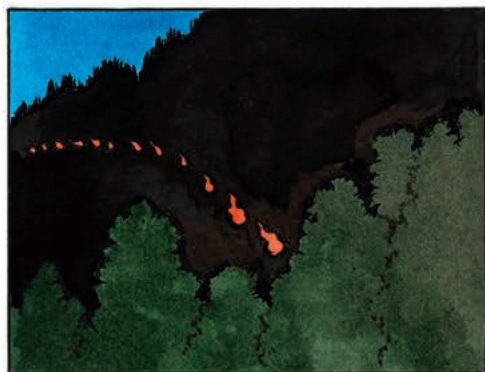


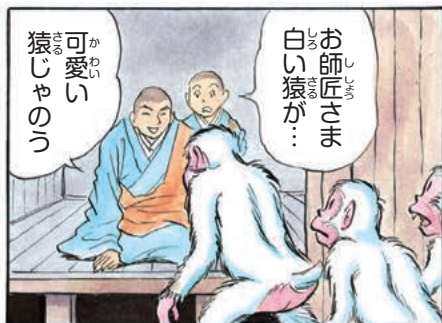
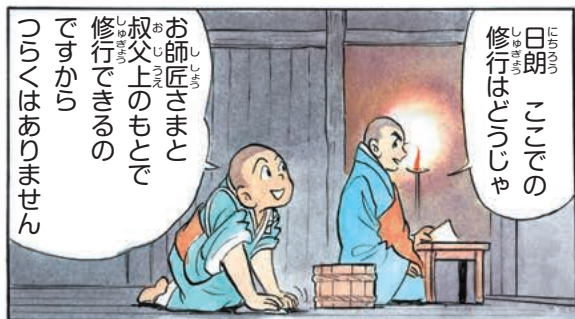
写經のまんが動画が
ご覧になれます

に ち れ ん
日蓮さま

12 まつ ば が や つ ほ う な ん
松葉ヶ谷の法難











火を放て！

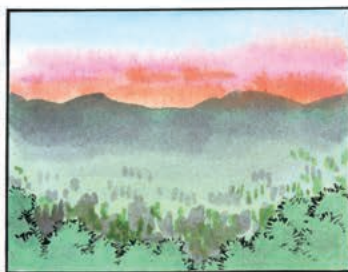
庵ごと
焼いてしまえ！



お上人さまあ
どこですかあ

早く早く
お逃げください

日蓮を
逃がすでないぞ



そ……
草庵が

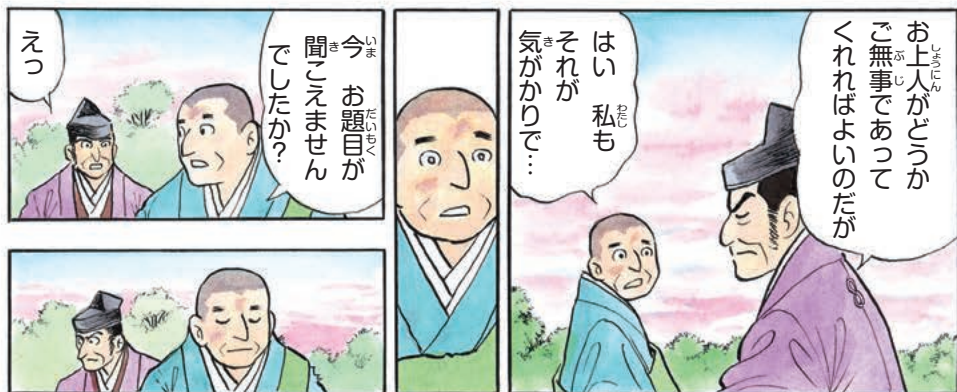


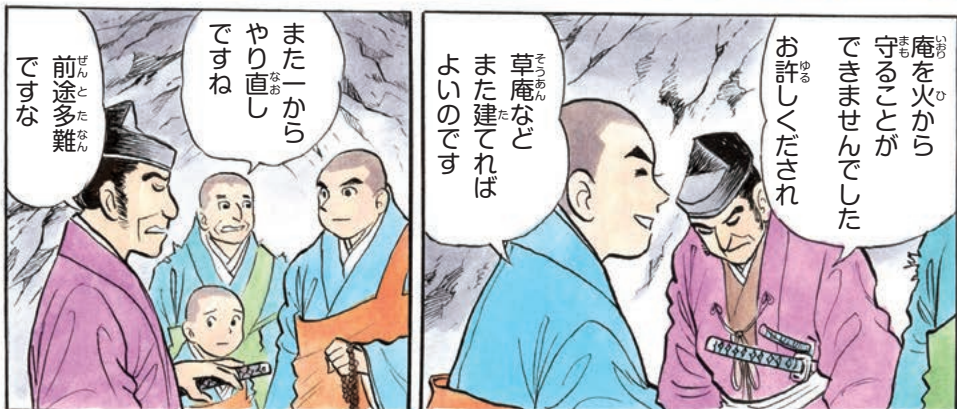
はい
お陰で
助かりました

怪我は
ありません
でしたか



とうとう
焼け落ちて
しまいました







松葉ヶ谷の法難

辻説法では日蓮聖人に責められ、論破しようとしても説き伏せられ、改宗する人が次第に増えていくことで、念仏や禅宗の僧侶・信者は怒りを抑えられませんでした。そこに『立正安国論』が提出されたのです。幕府はそれに取り合わなかったため、この機に日蓮聖人を亡き者にしようとする草庵の襲撃が計画されます。

8月27日の夜、突然の襲撃になすすべもありません。

進士太郎や能登坊が勇敢に立ち向かい防戦につとめますが、草庵は焼失してしまいます。

暴徒が草庵を襲撃する直前、白い猿が日蓮聖人の袖を引いて裏山の洞窟に導いて危機を救った、という伝説があります。

神奈川県逗子市にある猿畠山法性寺は、日蓮聖人が難を逃れた岩窟の地に建てられたお寺といわれています。



日蓮宗HPより



お寺の本棚

精神療法の途

『安立大法尼の教え』

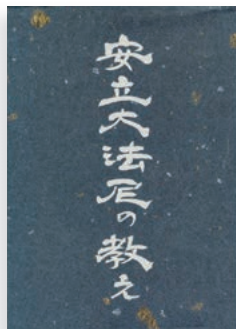
私は当時、眼科の研究をしてみたいと思って、愛知病院に行きま

した。その頃、眼病の中でも治らぬと言われているのは黒内障・緑

内障でありまして、診察に来院した患者に対し該病なることを断定することは、結局「治らぬぞ」という宣告であります。医師として病を治す役目の者が「病は治らぬ」と言うのは全く不合理なことであります。しかしながら、重病であるが故に「治らぬものは治らぬ」と患者に宣告すべきが本当かもしれませんが、患者としても薬でも付けてもらわなければ慰めにもなりません。薬は与えますが、まことに心苦しいことであり、自責の念に堪えぬものがありました。

前会長にその由を話しましたら、曰く、

「病のものはご承知の如く過去の因果に外ならない。その源を知らずして病を薬のみに頼って治そうとするのは全く不合理のことであって、治らぬがあたりまえのことである。何故なれば





法華經譬喻品には、『若し医道を修して、方に順じて病を治せば、更に他の疾を増し、或いは復死を致さん。若し自ら病あらば、人の救療することなく、設い良薬を服すとも、而も復増劇せん。若しは他の反逆し、抄劫し窃盜せん』とあります。治らぬがあたりまえ、治るは不思議と言わねばなりません。しかし、『是好良薬・今留在此』の此の経の實踐に依れば必ず根切に治ります。

あなた試みてください。医師の診断で治らぬと断定されたものでも、法に依って精神療法を併用してくださるなら、治りますよ。まず患者にその原因を知らしめ、患者の精神修養に就いての欠点を反省せしめて実行させ、妙法に帰依せしめたなれば、必ず全治せぬということはないのです」

これを聞いて、黒内障の患者で不治と断定された者を二週間で全治せしめました。以後、「薬餌にのみ頼る医師は今日限り止めよう」と覚悟をしたのであります。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (9)

無量義經 徳行品第一

若しも聞くことあるは意い開ひらけて 無量生死むりやうしじの衆結斷しゆけつだんぜざることなし 聞くことあるは或あるは須しゆ

陀洹だおん 斯陀しだ・阿那あな・阿羅漢あらかん 無漏むろ無為むいの縁覺えんかく処しよ 無生無滅むしやうむめつの菩薩地ぼさつちを得え

この仏さまの教えを聞くことができますと、心が開け、明るくなって、数限りない生死の外に立って、人生のさまざまな変化によって起こる心の捉われを断ち切ることができます。迷いのために心が縛られたり、自由に分別ができなくなることがあっても、仏さまの教えを聞いてその教えを実行すれば、教えの力によって覚りが得られるというのであります。

声聞界を四つに分け、「声聞の四果」と言われていることがあります。次の四です。

一、須陀洹。二、斯陀含。三、阿那含。四、阿羅漢。

この上が縁覺です。縁に依って覚ることができるという程度に進んだわけです。その覚りは無漏・無為と言われております。「無漏」は迷い、即ち煩惱がなくなったこと。「無為」は自己中心の心がなくなつて、物事を正しく考えられるようになったこと。

「無生無滅の菩薩地」は人生のあらゆる変化に影響されないようになった境界。悪口を言われても驚かず、得意な境界でも驕らずで、いかなる変化にも影響を受けない状態となり、常に仏さまの教えを聞いて自分で工夫し、実行に努めるのが菩薩と言われる人であります。

或は無量の陀羅尼 無礙の樂説大弁才を得て 甚深微妙の偈を演説し 遊戲して法の清渠
に澡浴し 或は躍り飛騰して神足を現じ 水火に出没して身自由なり

「陀羅尼」 人に教えを説いて悪を止めさせ、善いことを進めて行く力。「無礙の樂説大弁才」 人いつも喜んで人に教えを説く力。「甚深微妙の偈を演説し」 奥深い仏さまの教えを説き明かすことができるということ。そうして「遊戲し」 人その人に応じて自由自在に教えを説くことができるのです。「法の清渠に澡浴し」とは、きれいな水の流れの中に身をひたして洗うように、教えの中に溶け入って人に教えを説くことです。「躍り飛騰して神足を現じ」とは、身を躍らせて飛び上がるように、少しの障りもなく自由自在に教えを説くことができるのです。それは「水火に出没して身自由なり」で、いろいろな迫害・難儀があっても少しも恐れることなく、自由にやりすごして教えを説いていくということです。

如来の法輪相是の如し 清浄無変にして思議し難し 我等咸く復共に稽首して 法輪転じ
たもうに時を以てするに帰命したてまつる 稽首して梵音声に帰依したてまつる 稽首し
て縁・諦・度に帰依したてまつる

仏さまがみ教えをお説きになり、大勢の人々が感化を受ける有様は「清浄無辺にして思議し難し」であります。その清らかさは限りがないもので、私どもの考えの及ぶところではありません。私どもは、そのみ教えが深く心に染み渡り、心の奥にまで達するその尊さにご帰依申し上げるのです。又、

十二因縁・四諦・六度という順序を立てて、実にわかりやすくお説きくださいますから、そのありがたさにご帰依申し上げるのであります。

世尊往昔の無量劫に 勤苦に衆の徳行を修習して 我人・天・龍神王の為にし 普く一切

の諸の衆生に及ぼしたまえり

仏さまは昔、無量の歲月の間、努力を重ねていろいろな徳行を修めていらっしやいましたが、その修行なされたことというのは、決して仏さまご自身のためではなく、ただ、私も人間界や天上界、或は龍神といった、生命あるあらゆるものも含めて、皆救いたいというお考えからでありました。そうして、その修行の結果「普く一切の諸々の衆生に及ぼしたまえり」で、大勢の人々に説き聞かせてくださいました。これは大変ありがたいことでありました。

能く一切の諸の捨て難き 財宝妻子及び国城を捨てて 法の内外において憍む所なく 頭
目髓脳悉く人に施せり 諸仏の清浄の禁を奉持して 乃至命を失えども毀傷したまわす
若し人刀杖をもつて来つて害を加え 惡口罵辱すれども終に瞋りたまわす

その修行なさる場合においては、お金にも妻子にも執着がなく、国をも捨て、執着というものを一切捨ててご修行なさいました。それは「法の内外において憍む所なく」＝一切の物を惜しむことなく、「頭目

髓腦悉く人に施せり」で、ご自分の努力はもとより、肉体すら人々のために投げ出され、法のためにご奉仕されたのであります。そうして「命を失えども毀傷したまわず」Ⅱ生命に代えても戒めを破ることなく、正しく修行なさいました。又、人が刀を以って斬りつけるとか、杖を以って打つというようなことをしてきても怒らず、或は罵られ、辱しめられても怒ることはありませんでした。

劫を歴て身を挫けども倦惰したまわず 昼夜に心を摂めて常に禪にあり 遍く一切の衆の
道法を学して 智慧深く衆生の根に入りたまえり 是の故に今自在の力を得て 法におい
て自在にして法王と為りたまえり 我復咸く共俱に稽首して 能く諸の勤め難きを勤め
たまえるに帰依したてまつる

「こうして仏さまは、非常に長い年月、どんなに苦しい目に遇われても怠けたり、勇気が失せるというようなことはありませんでした。昼夜を問わず心を修め、乱れ勝ちな心を鎮めて禪の状態にあられました。あらゆる教えを学び、智慧が明らかになり、大勢の人々の機根に深く入り、人々のいろいろなことがおわかりになり、教えを自由に説くこと、一切の教えを自在に扱うことができる法王となりました。このような行をなさって仏さまは仏智慧を成就せられたのであります。このようにご苦心なされたことも、決してご自分が偉くなろうと思っただけなのではなく、一切の人を救おうと思われたからであって、非常にありがたいことでございます。私どもは皆、そのご努力に対して心から深く帰依申し上げるのでございます」と、大樂説菩薩は仏さまに稽首して、心から御礼申し上げたのであります。

やさしい仏教

花まつりとは

花まつりはお釈迦さまのご誕生をお祝いする日です。

お釈迦さまは今からおおよそ2500年前の4月8日、ネパールのルンビニーでお生まれになりました。

花を飾るのはなぜ

お釈迦さまがお生まれになった時、花が一斉に咲き誇ったと言われています。

そのことから花御堂に祀られた誕生仏の周りを花で飾っています。

甘茶をかけるのはなぜ

お釈迦さまがお生まれになった時、竜が産湯のかわりに天から甘露の雨を降らせたとされており、そのめぐみの雨にたとえて、誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。

甘茶で健康に

現在の甘茶は甘草（漢方薬の一種）を煎じたもので、飲むと健康によいと言われています。お参りにこられた方は甘茶を持ち帰り、無病息災を祈って、家族みんなで飲まれています。



誕生仏は何を表しているの

お釈迦さまはお生まれになってすぐに七歩歩まれ、右手を天に、左手を地に向けて次のようにおっしゃったと伝えられています。

「**天上天下 唯我独尊 三界皆苦 我当度之**」
てんじょうげ ゆいがどくそん さんがいがいく がとうとし

天上天下 唯我独尊

「天の上にも天の下にも、私一人が尊い」という意味であると同時に、「人間は生まれや育ちにかかわらず、みな平等に尊い存在だ」ということも意味しています。また七歩歩まれたのは、私達が苦しみ続ける世界・六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）を超える道を明らかにすることを表されています。

三界皆苦 我当度之

三界とは、欲望やこだわりによって苦しんでいる人々の世界です。私達の日常において、欲望やこだわりのままに生きていれば、皆苦しみから逃れることはできません。お釈迦さまは、その悩み苦しむ人々を本当の幸せに導こうとおっしゃったのです。

お釈迦さまの誕生をお祝いするとともに、仏さまの教えを聞いて、まわりの人に喜びを与えていきましょう。



花まつりYouTube
はこちらから！

のりのね体験

感謝

和泉支院 下方 恭代

私は今から37年ほど前、下方家に嫁いできました。義父と同居していましたが、年月が経つにつれて、お互いに奥深い所まで見えるようになってきました。

まずは、主人と義父はお互いあまりものを言わないことがわかりました。また、義父は私が働くことにも反対でした。

それからもう同居していても毎日が針のむしろで、そうこうしているうちに結婚して12年が経ちました。主人と義父は仕事上で意見が合わず、義父と私との折り合いもうまういかず、私達は家を出ることになりました。子ども達の学校のこともあり、同じ校区内に家を建てました。その時に、大きな罪障が出て、家の棟上げの翌日に主人が大怪我をしました。まだその頃は義父母も揃って元気にしていて「家を出るなら今しかない。今なら大

丈夫だ」と安心して、自分達だけの自由を求めていたのが大きな間違いだったのです。

その後、義母は肺気腫で入退院を繰り返しながら71歳で亡くなりました。それから約18年間、一人暮らしの義父はさまざまな病気で入退院を繰り返し、最後は急性心不全で亡くなりました。

義父は日ごろから日記に色々なことを書いていました。日記には、自分の祭壇、墓地の構想も描かれてあり、告別式に参列してくれた人達にあてた手紙も残されていました。最後まできっちりとした人だったなあと感じました。こんな義父だったからこそ、私達に迷惑をかけまいと最後まで自分のことは自分でし、亡くなっていったのだと思いました。

ある日、主人が私に「じいじいは、あんたがお寺に行って一生懸命やってくれているから、お徳をもらえたと思うで」と言ってくれました。なんとうれしい言葉だろうと思います、胸が熱くなりました。日頃、あまりお参りしない主人なのですが、こんな風に思ってくれている。主人に愚痴を言ったり堪忍を破ったりしている場合ではなく、もっと主人のいい

所を見れば感謝できるのにと、日ごろの心遣いを反省いたしました。

思い返せば、下方家に嫁いできてから誰にも文句を言われず、ずっとお参りさせてもらっていたのに、その大事なことに感謝を忘れていました。実は、亡くなった義父も主人の車の横に乗り、お寺の門をくぐったこともあるのです。そのことを義父から後で聞き「立派なお寺やなあ」と言っていたことも思い出しました。

これからは、お寺にお参りできることをもっと喜び、お互いに感謝の気持ち伝え合えるような家族でありたいとつくづく思います。

もし、ご法に出会えていなかったら、きっと乗りこえられないことがたくさんあったはずで
す。ご法に出会わせてくれた実家の両親や、快
くお寺にお参りさせてくれる主人、今は亡
き義父母に心から感謝し、三徳の実行に励ん
でまいります。



福祉の ひろば



幸せのお手伝い

「家族でもあり先生でもある
利用者さん」

Aさんと一緒に歩んだ10年

泰山寮で出会った自閉症の利用者さんとは一人ひとりに深い思い出があります。特に、私が所属する棟の24名の利用者さんは、寝食をともにする家族のような存在でもあり、未熟な私に根気よく色々なことを教えてくださる先生でもあります。

Aさんは私が担当する利用者さんの一人です。気分の起伏が激しく、落ち着かない時には大きな声を出し、唾を吐いたり、叩いたり、噛んだりすることもあります。勤め始めた頃はAさんの支援が上手くできず、さらに不穏にさせてしまうこと

も多く、勝手に「怖い」と苦手意識を持っていました。しかし、月日が経って後輩が増えてくると、そうもばかり言っておられず、Aさんと向き合う時間が自然と増えてきました。そして数年前から担当させていただいています。

今でもAさんの支援はどうすれば正解なのかがわからず、手探りが続いています。不穏な時はどうにかしようと焦らずに、まずはその気持ちを受け止め、落ち着くまで見守り、そこからきちんと話を聞くことを心掛けています。

最近、保護者の方が「色々なことにかんしゃくを起こさずに理解できるようになりました」と言

っておられました。また、Aさんの機嫌が良い時には、「ありがと」「大好き」「みんないい人だね」という言葉が増えてきました。毎日継続して見ていると、「二歩進んで二歩さがる」の日もあれば「一歩進んで二歩さがる」の日もあります。が、十年前のことを思い返すと「利用者さんも私も自身も確実に歩みを進めているのだな」と実感することにもやりがいも感じます。

社会に出たのも初めて、自閉症の方と関わったのも初めて、泰山寮は私にとって何もかもが未知の世界でした。うれしいことも辛いことも、出会いも別れもたくさん経験しました。飽き性で打たれ弱い私が、一つのことを十年も続けることができたのは初めてのことです。利用者さんとそのご家族、職場の皆さんの支えがあったからに他なりません。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

ます。

障がい者支援施設 泰山寮

グループリーダー（生活支援員）

白川

奈津美



福祉・介護の業界研究会を開催



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会 ～実際の現場を紹介し魅力発信～

福祉・介護業界に就職を希望する人は、年々減少しています。そのため、全国の介護施設では、深刻な人材不足が課題となっています。このままの状況が続くと、介護が必要となっても、介護サービスが受けられなかったり、施設に入所できないという状況が発生する可能性が高くなります。

昭徳会の人事課では、これまで採用活動で関わった学生に、介護の仕事のイメージについて話を聞きました。その結果、多くの学生が、仕事の様子を実際に見たことがないため、マスコミなどで報道されている内容から、漠然と労働環境が悪く、肉体労働できついというイメージを持っているとのことでした。そのため、昭徳会では、少しでも福祉・介護業界に興味を持ち、就職を希望する学生を増やしたいとの思いから、施設と協力して「インターシップ」や「業界研究会」を積極的に開催しています。そして、今年度も2024年卒学生を対象とした業界研究会を2月に開催しました。新型コロナウイルスイ

ルス感染症対策のため小規模での開催となりましたが、小原地区、高浜地区、みよし地区に分けて三日間、延べ13名の大学生が、昭徳会の施設を見学に来てくれました。

施設の職員からは、業務内容の説明や今後の新しい取り組み、福祉業界の動向など、実際の現場の様子が具体的に伝えられました。高齢者施設では、「回想法を活用した利用者とのコミュニケーション方法」や、「ICT等を活用した介護」について話され、障がい者施設では、「農福連携」や「障がい者の地域参加」について説明されました。参加した学生も、新しい話を聞くことができ、目をキラキラさせ、職員の話聞いていました。

また、施設見学の後は、先輩職員との交流会を実施しました。入職一年目から三年目の職員にも協力してもらい、普段どのように働いているか、休日の過ごし方などについて話され、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しく交流ができました。学生から

は、「どうしてこの施設に就職を決めたのか」「学生時代と就職してからの考え方にどんな変化があったか」など、就職活動を目前に控えた学生ならではの質問をしていました。

参加した学生の中には、初めて施設を訪れるという人がいて、熱心にメモを取りながら、職員の話聞いていました。そして、業界研究会終了後、「実際に施設見学すると、とても楽しそうで、イメージが変わりました」と感想を話していました。

今後も昭徳会では、福祉・介護の仕事を多くの人知ってもらえるように、さまざまな活動を実施し、福祉の魅力を発信していきたいと思っています。



2023年度、日本福祉大学は学園創立70周年を迎えます

～日本福祉大学～

写真提供・日本福祉大学



SINCE 1953
Well-being for All

70周年シンボルマーク

1953年に鈴木修学先生が日本福祉大学の前身である中部社会事業短期大学を開学し、2023年で創立70年になります。

本学は創立70周年を迎えるにあたり、建学の精神に根差す本学の教育研究の現代的意義と、それを踏まえた世界のあり方を、改めて広く問う決意として、「Well-being for All」幸せを創造する大学へ」を宣言しました。

鈴木修学先生が釈尊の説き顕された法華経の一偈「如我等無異」を精神的根源として開学して以降、本学は常に福祉を軸とした教育研究と、それを基盤とした社会貢献事業の発展に努めてきました。

創立から70年を経過して世界を見渡した時、AIをはじめとする情報技術は大きく進展し、医療・保健、そして初等教育なども多くの指標で改善が見られるようになりました。一方で、地球規模でのパンデミックと環境問題、武力行使を契機とした国際秩序の混乱、先進国を含む相対的貧困の拡大と、それに伴う機会の格差など、世

界はさまざまな困難に直面しています。また日本国内の少子高齢社会に伴う問題は、多くの国々で対応が迫られる共通の課題です。

こうした時代において改めて新たな福祉社会を展望した際、自らの意思に基づき、自由に将来を選択することができる個人の幸福（ウェルビーイング）と、誰もが健康で文化的な生活を送ることが保障される幸福（ウェルビーイング）が調和された社会は、我々がめざすべき世界のありようです。

そして、本学のエデュケーションである「万人の福祉のために、真実と慈愛と献身を」のもと、本学が追究してきた教育研究は、これからの福祉社会のあり方や「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsの理念と軌を一にします。

事業の推進にあたっては、学園全体の教育研究のさらなる発展を中核にしつつ、学園の諸事業と連携しながら、持続可能な福祉社会の実現や国際連携のあり方

等、教育研究機関として果たすべき、世界の諸課題の解決に寄与する取り組みを進めていく予定です。

また、それぞれのキャンパスが位置する地域の特性に沿って、まちづくりや地域開発に資する、実践的で探究的な学びを積極的に展開するとともに、事業の成果発信の機会を通じて、望ましい世界のありようについて広く議論を深めてまいります。

今年から2025年までの三年間を70周年事業期間と位置づけ、さまざまな事業を展開してまいります。この度、特設のサイトも立ち上げました。ぜひご覧をいただければと思います。事業の進捗などは随時『法音』でもご報告したいと考えておりますので、引き続き皆さまからのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人日本福祉大学 周年事業担当執行役員

大口 将



70周年記念サイト

日本福祉大学 70周年

検索

幸せの種まき

人生は修行と心得ましょう
困難を乗り越えた先に
本当の喜びがあります

修行であれば
困ったことがあるのは当然です
それを乗り越えていくと
心の広い人になることができます

大乗山 法音寺

編集後記

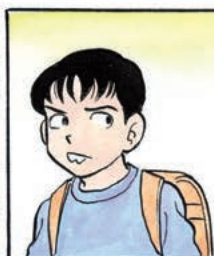
第8波のコロナ感染は収まってきた様子で、マスクの着用は個人の判断に委ねられるようになりました。また5月8日には新型コロナウイルスの感染症法上の分類が変わると言われています。

今月号の支院だよりには「三年ぶりに：」という行事レポートが散見されました。まだ予断は許されないものの、法音寺も少しずつ以前の日常を取り戻してきているのかもしれませんが。

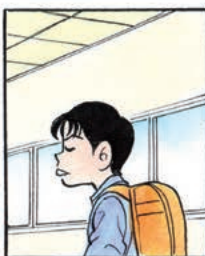
「仏さまのご守護は、いつも助けていただくことだけではなく、時に困ったこと、苦しいことで私達を鍛えてくださる」とお寺では教えられます。時に不都合なことが起こるからこそ、何気ない日常が本当にありがたいのだとつくづく感じます。またそう考えると、お寺で佛法を学ぶ私達は、不都合なこと、困ったことに遭った時こそ、怒りや愚痴を口にせず、その経験を糧にして成長していかなければなりません。逃げずに受け止め、笑顔で乗り越える経験を積み重ね、人格を磨いていく。そして、いつの日にか「法音寺で教えを聞いている人は違いますね」と言われるようになりたいものです。

ひみつ

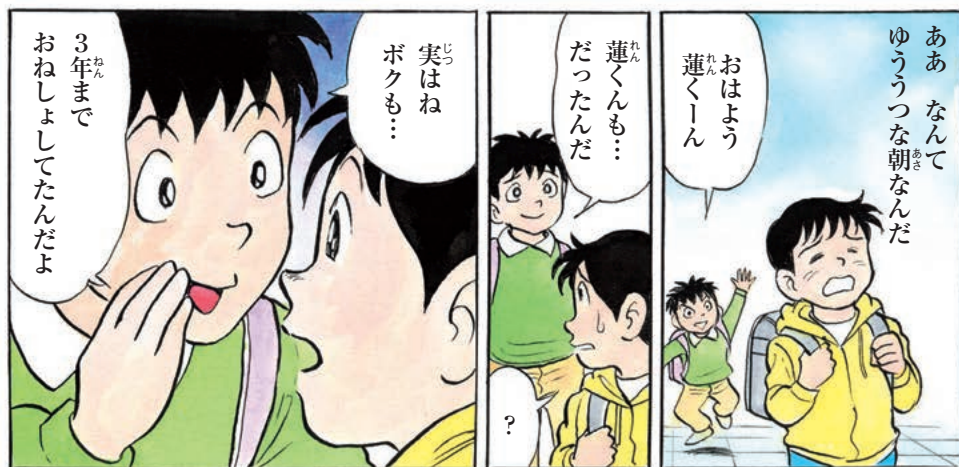
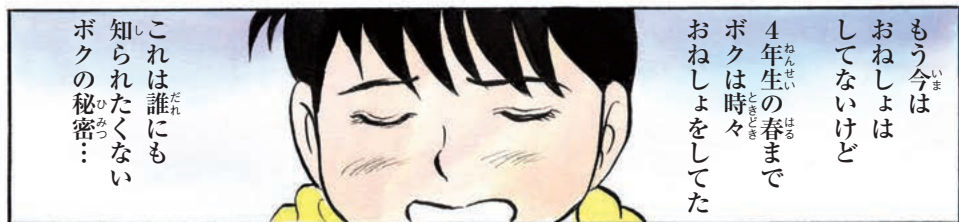
竹中 淳



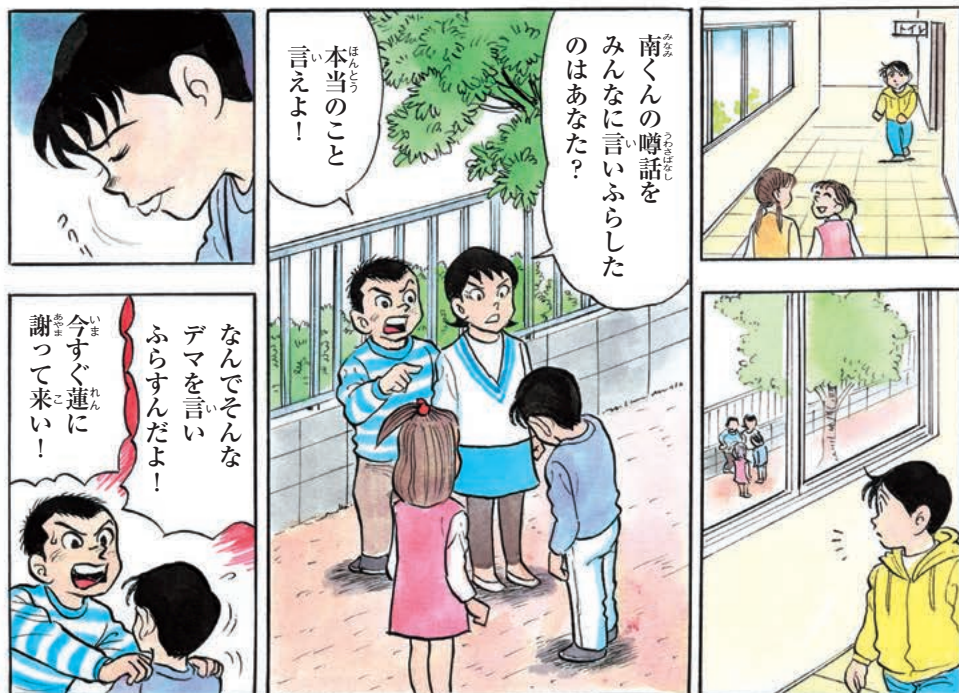
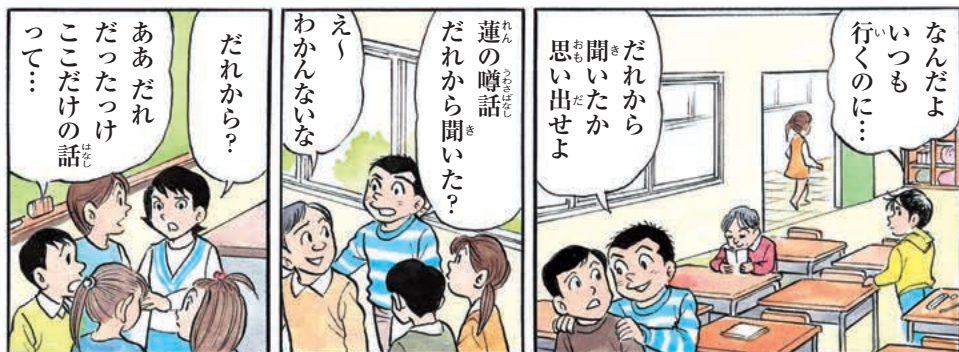
ハルトくんとは
保育園から
ずっと同じクラスで
だれよりも
長いつきあいだ



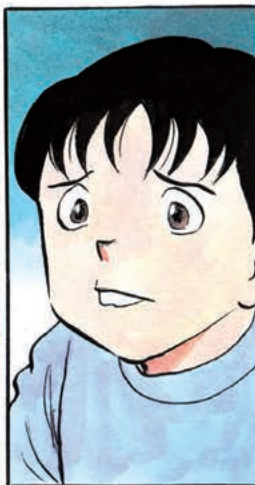
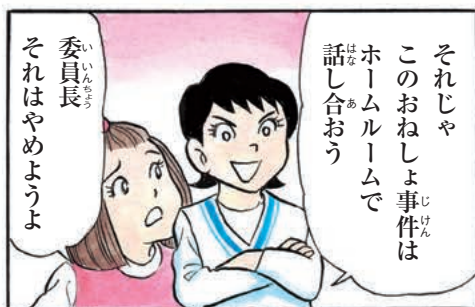


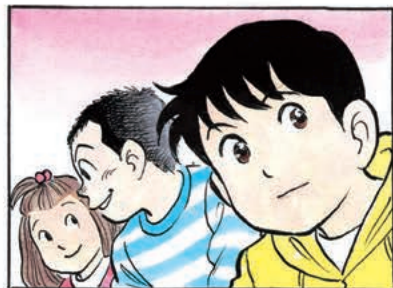












おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





勇猛精進

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
<https://www.houonji.com> FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています



SNSでつながる法音寺



法音寺公式
facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

<https://www.youtube.com/user/houonjmovie>

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市中区駒方町4-10
TEL (052) 831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL (0569) 87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和5年4月号・No.642・令和5年4月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社